

まえがき

旅は孤立した地域や異文化を交流させ、均質化させると同時に、地域の個性を発見し、さらに新たな文化（異文化）形成を促す。旅は異質なものを混ぜ合わせる力とともに、異質なものを生み出す「文化形成力」をも有している。

日本ではとくに近世以降、都市内の情報流通や人的交流、地域間の往来が盛んになり、地域文化はつねに攪拌され、出版・印刷物などの各種情報媒体にのって全国化された。しかし一方では、お国ぶりや特産品・みやげ物など地域独自の精神的・物質的所産はそれぞれ個性を発揮し、独自の性格を保ちながら、新たな地域文化の形成・強化に向かった。さらに一九世紀半ば以後の日本、開国以降の日本は、世界的な移動と交通体系の中に組み込まれ、海外からの旅行者による新しい交流と文化形成のフィールドとなった。

本報告書は、以上のような基本理解のもと、二〇〇五年三月に開催した国際研究集会（国際シンポジウム）での発表を中心に編集した論文集である。研究集会全体は、前後二回の一般向け公開講演会を含め、六日間にわたった。シンポジウムでは、旅と文化形成のかかわりが、さまざまな角度から熱心に討議された。